

寺澤さん、畑崎さん ワン・ツー

八学大勢、自転車の第1回全日本学生eレース

八戸

先月2日に行われた自転車競技のバーチャル大会「第1回全日本学生選手権eレース大会」男子で、八戸学院大2年の寺澤アンドリュウさん(20)と長野・上田西高出IIが優勝、1年の畑崎大輝さん(19)と八戸工業高出IIが準優勝した。2人は初めて開かれた大会での「ワン・ツー・フィニッシュ」に喜び、さらなる活躍を誓っている。

(向屋敷萌)



タブレットを使ってレースの様子を小林真市長(右)に説明する寺澤アンドリュウさん(中央)と畑崎大輝さん

専用アプリを設定 コースをオンラインでタイム競う

大会は、新型コロナウイルスの影響で多くのレースが中止となる中、学生に試合の機会を与えようと、日本学生自転車競技連盟が初開催。男子と女子に計18人がエントリーした。

eレースは、専用アプリにコースを設定し、オンライン上でタイムを競う。自転車の後輪部に専用器具を取り付けパソコンなどと接続。ペダルをこぐ力が速さに変換され、前へと進む仕組みとなっており、坂道による負荷なども再現される。今回は長野県王滝村のダム湖を周回する約18キロのコースが設定された。自宅や部室などからも参加可能で、共に同大自転車競技部に所属する2人は、八戸市内の施設から参加し、見事な走りを見せた。

2人は23日、市庁に小林真市長を訪ね、喜びを報告。優勝を狙っていたという寺澤さんは「東北勢で1、2位を取れたことは自信になった」と手応えを感じた様子。「来季はインカレのロード優勝を目指す」と力強く目標を語った。畑崎さんは「新型コロナウイルスの影響で、室内での練習が多くなったことが奏功した。準優勝できてうれしい」と笑顔を浮かべた。

小林市長は「新しい大会で好成績を残したのは素晴らしいこと。またうれしいニュースを届けてほしい」と激励した。